



たこと、9月の中国輸出は前年比15.3%増加(予想は12.5%増加)、輸入は7%増と事前予想の2.4%減を大きく上回ったことから反発。10月15日時点で1912ドル(現物後場買付)と月初価格から17ドル上げて前半締めとなった。

後半は10月のNY連銀製造業景気指数は6.17と事前予想の20.25を大幅に下回った事(前月は27.54)、中国の9月の生産者物価指数(PPI)は2年7ヶ月連続で低下し過去最長だったことなどマイナス材料もあったが、中国人民銀行が景気下支えで中堅銀行6行に2000億元の資金を注入するとの報ったこと、HSBCが23日発表した中国の10月の製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は50.4となり9月確報値(50.2)より0.2ポイント改善したこと、欧州銀のストレステストで不合格は25行、資本不足は民間予想を大幅に下回ることなどを好感、11月4日現在LME(現物後場)は2066ドルと後半スタート価格から169ドル上昇してのスタートとなった。

■経済指標:月間のドル/円レート(TTS)は106.85円→110.17円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比-2.6%の85万1051台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は同-9.1%の24万511台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は同-14.3%の7万5882戸であった。

貿易指標では、財務省貿易統計による輸出はアルミニ新地金が同-79.2%の55t、2次合金が同+37.8%の1364t、スクラップが同+3.3%の1万2863t。輸入は新地金が同+8%の12万9505t、二次合金が同+13.8%の9万6448t、スクラップが同+41.6%の1049t、合金スクラップは同+79.7%の6781tとなつた。

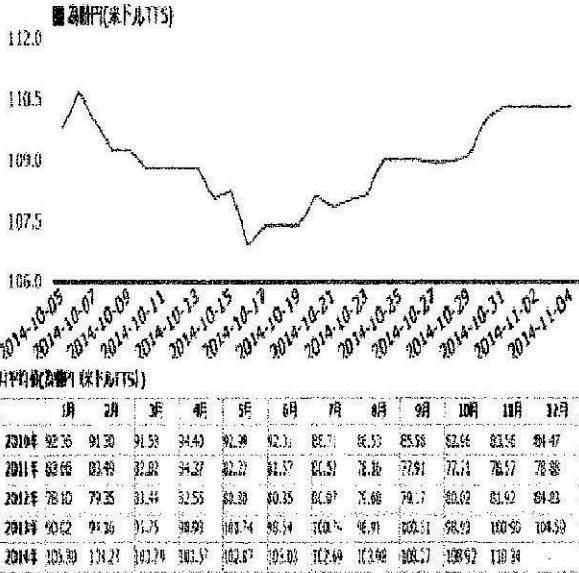
国内指標では、日本アルミニウム協会発表の圧延品生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は同+5.2%の17万6398t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は同+0.3%の7万608であった。

■指標概況:9月の四輪車生産台数は85万1051台で前年同月の87万3744台に比べ2万2693台・2.6%減と3ヶ月連続で前年同月を下回った。9月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り▽乗

用車は71万4227台で3万851台・4.1%減と3ヶ月連続マイナス。このうち普通車は42万3310台で2432台・0.6%増、小型四輪車は15万740台で3万4987台・18.8%減、軽四輪車は14万177台で1,704台・1.2%増▽トラックは12万3661台で6606台・5.6%増と2ヶ月ぶりプラス。このうち普通車は5万6963台で4465台・8.5%増、小型四輪車は3万874台で2661台・9.4%増。軽四輪車は3万5824台で520台・1.4%減▽バスは1万3163台で1552台・13.4%増と2ヶ月ぶりプラス。このうち大型は809台で46台・5.4%の減少、小型は1万2354台で1598台・14.9%増。9月の国内需要は51万8774台で前年同月比0.8%減少(うち乗用車43万1823台で同3.2%減、トラック8万5611台で同13.2%増、バス1340台で同19.7%増)。輸出は同3.3%減(実績)、10月の国内自動車販売台数(軽は除く)は24万511台で前年比-9.1%と3ヶ月連続マイナス(内、乗用車-11.3%、貨物+6.6%、バス+15.4%)となつた。

9月の住宅着工戸数は7万5882戸(前年同月比14.3%減)、季節調整済年率換算値では88.0万戸(前月比4.1%増)で2ヶ月連続。前年同月比では、持家は8ヶ月連続減(前年同月比23.4%減、季節調整値の前月比4.0%増、消費税率引き上げの影響を受けない前々年同月比12.5%減)。貸家は3ヶ月連続減(同5.7%減、同6.9%増、同14.6%増)。分譲住宅は8ヶ月連続減(同15.3%減、同3.9%増、同4.6%増)。分譲マンションは8ヶ月連続減(同20.4%減、前々年同月比7.9%増)。分譲一戸建住宅は5ヶ月連続減(同10.1%減、同1.1%増)となつた。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比+0.3%の7万608t。出荷は-0.4%の7万1557tで8ヶ月連続マイナス(内、鋳物-5.3%、ダイカスト+0.7%、板+6.1%、押出-10.1%、鉄鋼+10.8%、合金地金メーカー-4.7%)。アルミニウム圧延・押出品生産数は+5.2%の



17万6398tで13ヵ月連続プラス。板類に関して、缶材は3万4489t(-0.1%)、ビール系飲料の出荷量が減少した反面(7-9月期の出荷量は前年同期比-2.1%)、ボトル缶(主にコーヒー缶)が好調であったこと等により微減。自動車は1万3109t(+2.1%)、トラック向けが好調(トラック・バス向けで前年同月比+9.4%)。輸出は1万8126t(+29.7%)、海外関連工場への素条輸出の増加等により6ヶ月連続プラス(4月+23%、5月+20%、6月+35%、7月+34%、8月+15%、9月+30%)。押出類に関して、建設は4万2744t(-1.2%)、新設住宅着工戸数減少が影響(8月の着工戸数は7万3771戸で前年同月比-12.5%)。自動車は1万1903t(-2.1%)、トラック向けが好調(トラック・バス向けで前年同月比+21.5%)であった。

輸出は前年比で新地金が-79.2%の55t、2次合金が+37.8%の1364t、スクラップが-3.3%の1万2863t。輸入は同じく新地金が+8%の12万9505t、2次合金は+13.8%の9万6448t、スクラップは+41.6%の1049t、合金スクラップは+79.7%の6781tであった。

■見通し:自動車は生産が前月に続き減少の-2.6%、10月の国内販売台数も前年比-9.1%と悪化。販売の減少が続きメーカーもそれに伴い生産を調整し輸出もついに-3.3%と悪化、今後の動向に注目したい。新設住宅着工数は前年比-14.3%、季節調整済年率換算値で88万戸(前月比4.1%増)、消費税前の駆け込み需要も終了し7ヵ月連続減、ただ季節調整済換算では2ヵ月連続プラスであり今後の動向に期待する。

二次合金は自動車生産減少も生産は小幅上昇、出荷は相変わらず減少、今後も大幅な改善は期待できないが大幅な悪化もないと見解。アルミ圧延・押出品生産は前月の続き押出しはよくないものの、板がボトル缶コーヒー、条が輸出で増加しており今後もこの傾向が続くと見解。輸出は世界的に需要の多い自動車用の2次合金が円安も伴い増加、輸入は減少するものの自動車生産

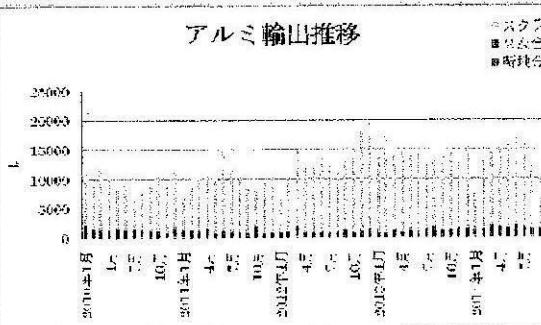
台数の高止まりを受け慢性的な原料不足から全種増加、円安は当分続くと見ており、この傾向は続く。これらを踏まえアルミスクラップ需給は引き続きタイトと見解。

■価格・為替予想:今月は日銀の金融政策に伴う株、為替の動向及び米FRBの出口戦略に左右される。日銀の黒田総裁は先月に金融政策決定会合を開き、マネリーベースの増額目標を現行の年間60兆~70兆円から年間約80兆円に増やす追加緩和策を決めたことから日経平均は一時7年ぶりとなる1万7000円台まで上昇、ドル円も6年ぶりの114円台となった。ただ数日間での急騰であり、またFRBの量的緩和終了報道との相乗効果とも考えられ一方的な上昇、円安はないのではないか。量的金融緩和の第3弾(QE3)に伴う資産購入を10月いっぱい終了したが「ゼロ金利政策」について量的緩和終了後も「相当な期間、維持するのが適切だ」との表現を据え置いた。金融政策の方向性を示す時間軸(フォワード・ガイダンス)を変えず、利上げを慎重に判断する姿勢を改めて強調したことから急激な米景気後退はないとの見解。

それらを踏まえた11月のアルミ価格は日銀の追加緩和策からの波及効果でさらなる株価の上昇と円安が続き米FRBの緩和終了を好感する形で米経済指標が堅調に推移した場合に10月高値のもう一段高の2200ドルを予測、いずれかの場合は2100ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合にもう一段安値の1900ドル。為替は米FRBの量的金融緩和の第3弾(QE3)に伴う終了と日銀の追加的金融緩和策の相乗効果で6年ぶりの114円台まで下落したが欧州懸念に伴うユーロ安、ドル高、円安への新規材料難、急落からの修正もあり対ユーロでのドル高から上値は9月高値の107円台、下値は変化なければ節目の115円との予測(TTM)。メーカースクラップ購入価格は+5~10円と予測。

輸入	7月			8月			9月		
	新地金	2次合金	スクラップ	新地金	2次合金	スクラップ	新地金	2次合金	スクラップ
新地金	145 t	188 t	55 t	17万3102 t	15万6668 t	12万8505 t			
前年比	+7.4%	+19%	-79.2%				+58.9%	+5.8%	+8%
2次合金	1518 t	1154 t	1364 t	8万8875 t	9万1905 t	9万6448 t			
前年比	+28.4%	-26.2%	+37.8%	+3.4%	+4.3%	+13.8%			
スクラップ	16059 t	1万2844 t	1万2863 t	1115 t	1183 t	1049 t			
前年比	+44.1%	+3.6%	-3.3%	+58.7%	+60%	+41.6%			

アルミ輸出推移



アルミ輸入推移

